（令和２年１月 31 日作成）

岡山 ESD プロジェクト 2015-2019 の取組状況に係る報告

岡山 ESD 推進協議会事務局（岡山市 ESD 推進課）

１．はじめに

岡山市域では、「国連ＥＳＤの 10 年」が開始されたことを踏まえ、2005 年に、岡山ＥＳＤ推進協議会（以下、「協議会」という。）を設立するとともに、国連大学が提唱している「ＥＳＤに関する地域拠点」（ＲＣＥ）の考え方に基づき、岡山ＥＳＤプロジェクト（以下、「プロジェクト」という。）を開始した。

その後、2015 年に「ＥＳＤに関するグローバル・アクション・プログラム」の開始等の国際的な動向等を踏まえ、従来のプロジェクトの枠組みを見直し、「岡山ＥＳＤプロジェクト 2015-2019 基本構想」（以下、「基本構想」という。）を策定している。

一方、基本構想の策定以降にＥＳＤ国内実施計画が策定され、また持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）の推進を目指す国内外の動きが加速される等、岡山市域におけるＥＳＤの推進に大きく係わる事項が生じていることから、プロジェクトに関わっている各組織の取組状況等について検証した。

２．方法

以下の事項について検証した。

（１）基本構想に規定されている指標の達成状況（別添資料Ⅰ）

（２）協議会の委員会及び運営委員会の構成組織、プロジェクト参加団体の計８１団体へのアンケート結果（別添資料Ⅱ）

（３）岡山市内のユネスコスクール校（小学校３６校、中学校１５校）及び各地域のユネスコスクール校と連携してＥＳＤに取り組んでいる公民館１６館を対象としたアンケート結果

（４）協議会が直接実施している事業についての点検結果

（５）岡山市市民意識調査結果等による岡山市域全体における持続可能な社会づくりに係わる状況

３．結果

（１）指標の達成状況

基本構想には、重点取り組み項目ごとに、主にイベント開催数や参加組織数等に係る１６項目の指標が設定されている。

そのうち、2019 年の最終目標が達成することが難しい項目は約２割で、残りの約８割は、中間目標年時点で達成しているか、最終年で達成が見込まれる状況である。（詳細は、別添資料Ⅰのとおり）

表１．基本構想に係る目標値の達成状況

状況	数	割合(%)
最終年(2019 年)の目標値を既に達成している	９	５６
最終年(2019 年)には目標値を達成できる見込みである	４	２５
最終年(2019 年)の目標値の達成は難しい	３	１９
計	１６	１００

(2017 年度末現在)

（２）－１　協議会参加組織の活動状況

本調査を開始した 2018 年度当初において協議会に登録していた２７５組織のうちの８１組織に調査への協力を依頼した。回答のあったのは４５組織（回答率：５５％）で、１組織を除きＥＳＤ活動に取り組んでおり、そのうちの約９割でプロジェクト基本構想に規定された「具体的な取組」の趣旨に沿った活動に取り組んでいた。その概要は以下のとおりである。(詳細は別添資料Ⅱのとおり)

① 取組項目

各組織が取り組んでいる取組項目については、「参加型の学びやイベント等を実施する」の他には、全体に分散する傾向が見られた。

全２６項目の中で比較的多かったものとしては、「ESD 情報に接する機会を増やす」、「持続可能な社会づくりへの思いや知恵の継承」、「若い世代のＥＳＤ実践者を増やす」、「専門分野の知識とＥＳＤ活動の実践が結び付く活動を促進する」等で、他の項目はいずれも 20%未満であった。

表２．各組織の取組項目（比較的多かったもの）

取組項目	割合(%)
参加型の学びの場づくりやイベント等を実施する(持続可能な地域の姿の共有)	６９
持続可能な社会づくりへの思いや知恵、技術の継承を図る。(ユース・人材育成)	２７
若い世代のＥＳＤ実践者を増やす。(ユース・人材育成)	２４
ＥＳＤを中心的に推進するリーダーやコーディネーターの育成・確保を図る。(ユース・人材育成)	２４
専門分野の知識と、ＥＳＤ活動の実践が結び付く活動を促進する。(地域コミュニティ・公民館でのＥＳＤの推進)	２０

② 活動分野

各組織が取り組んでいる活動分野は、「環境」及び「社会」の合計が全体の６割を超えていた他、「分野を特定せず」が約２割程度であった。

2005 年、主に「環境」と「国際理解」に係る活動から開始されたプロジェクト開始当時から比べると活動分野が広がってきている。

表３．協議会参加組織の活動分野の内訳　（単位：%）

		環境	社会	経済	分野を特定せず	その他	無回答
割合	2017 年度末	３３	２９	9	２０	8	2
	2005 年度末	９５	5	0	0	0	0

※構成比は小数点以下四捨五入のため、合計しても必ずしも１００とはならない。

③ 連携

「積極的に連携している」と「一部連携している」を合わせると、回答組織の約８割で他組織との連携活動が行われており、本プロジェクトの趣旨に沿って参加各組織間における連携が図られていると考えられるが、「他組織との連携はない」と回答した組織も１割程度ある。

表４．各組織の連携状況

状況項目	割合（%）
他組織との連携はない	9
一部、他組織の助言・協力を得たり、連携する場合がある	３６
積極的に他組織と連携している	４７
その他	8

④ 協議会活動への参加

岡山ＥＳＤ推進協議会が主催、共催している啓発イベントや関連会議、交流会、研修会等については、すべての組織で認知されており、また「時々参加している」と「積極的に参加している」合計は、全体の６割を超えていた。

一方で、協議会自体の活動とは、あまり係わりを持たずに活動している組織も全体の１／４程度あった。

表５．協議会自体の活動への参加状況

項目	割合（%）
あまり参加していない	２７
時々参加している	４４
積極的に参加している	２２
活動自体あまり知らない	0
その他	2

⑤ 各組織の活動とＳＤＧｓとの関連

各組織の活動とＳＤＧｓの目標との関連の認識について、「最も関連している」と「それ以外で関連している」の回答数の合計でみると、ＥＳＤと係わりが深い目標

４、11 の他、地域生活との関わりが深い目標３、17 が多く、逆に少なかったのは目標１、９、14 等であった。

一方で、現在の活動状況を踏まえると、上述した各組織が関わりが深いと認識している目標以外にも関わりがあるものも多いと考えられ、今後、各組織のＳＤＧｓに関する理解が深まっていくことにより、活動自体の広がりや深まりに繋がっていくことが期待される。

表６．各組織が関連あると認識しているＳＤＧｓ項目

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
最も関連	1	3	2	11	1	2	1	3	0	1	9	5	2	0	6	2	3
上記以外	3	3	8	8	7	4	6	4	1	6	5	3	5	2	3	3	7
合計	4	6	10	19	8	6	7	7	1	7	14	8	7	2	9	5	10

（数字は回答数）

（２）－２　協議会参加組織の活動成果に関する認識

① 組織自体の変容

ＥＳＤの取組を通じて、各組織自身の関係者の持続可能な社会づくりに関する意識や行動の変容に関して、「行動の変化が進んでいる」が最も多く、「意識が変わっているが、行動の変化はあまり進んでいない」を合わせると、全体の約８割であった。

一方で、規模の大きい組織では、小さい組織に比べて変容が進んでいない傾向が見られたが、この度の調査ではサンプル数が少なく、さらなる精査が必要と考えられる。

表７．ＥＳＤの取組による組織関係者の変容についての規模による違い

項目	割合(%)		
	全体	大規模	小規模
意識や行動とも、あまり変化が見られない	４	１１	３
意識は変わっているが、行動の変化はあまり進んでいない	３６	２２	４２
組織内全体で行動の変化が進んでいる	４４	２２	４７
その他	１６	４５	８

＊対象：４５組織、うち大規模組織は９、小規模組織は３６

＊大規模組織：組織の構成員が概ね 100 人以上または学習対象者が概ね 1,000 人以上

＊小規模組織：大規模組織以外の組織

また、上記とは別に、市内のユネスコスクールや公民館を対象とした調査を実施しており、同様な傾向が見られた。

岡山市立の各小中学校では、それぞれの教育基本計画に基づきＥＳＤに取り組んでおり、また、すべての公民館でも活動の柱の一つとしてＥＳＤに取り組んでいるが、中でも、今回の調査対象となった学校と公民館では、それぞれの中学校区内の小中学校及び公民館、地域住民が連携してＥＳＤに取り組んでおり、その成果が表れてきていることが伺われる。

表８．ＥＳＤ活動による学校自身の変容の状況(30%以上から回答のあった項目)

項目	割合(%)
地域との関係が深まってきた	８６
ＥＳＤに教科横断的に取り組むことができた	４９
ＥＳＤの実践を通して、教員自身の成長につながった	４３
同僚との協力、協働関係が強化、促進された	３７

（対象：51 校、複数回答可）

表９．公民館のＥＳＤ活動による職員の変容の状況(半数以上から回答のあった項目)

項目	割合(%)
公民館の事業を ESD の視点を活かして企画・実施できるようになった	８７
地域との関係が深まり、信頼関係が強くなった	６７
職員が ESD の意味を理解し、公民館で取り組むことの意義を理解できた	５３
持続可能な社会づくりに関する複数の課題を繋いで、事業を扱うようになった	５３

（対象：16 館、複数回答可）

② 学習対象者の変容

各組織のＥＳＤの取組を通じて、学習対象者の持続可能な社会づくりに関する意識や行動の変容に関して、「行動の変化が進んでいる」と「意識は変わっているが、行動の変化はあまり進んでいない」が同じ割合で最も多く、全体の約７割以上で変化が進んできていることが伺われる。

また、組織の規模による比較では、以下のとおり「意識は変わっているが、行動の変化はあまり進んでいない」は同程度で、「組織内全体で行動の変化が進んでいる」については、規模の小さい組織が高い傾向が見られた。

ただ、「意識や行動ともあまり変わっていない」については、組織規模に関わりなく回答数が０であり、持続可能な地域づくりに対する意識や行動の変容が、徐々に地域全体に広がっていることが伺われる。

表 10. 協議会参加団体が実施したＥＳＤ活動による学習対象者の変容

項目	割合(%)		
	全体	大規模	小規模
意識や行動とも、あまり変化が見られない	０	０	０
意識は変わっているが、行動の変化はあまり進んでいない	３６	３３	３６
組織内全体で行動の変化が進んでいる	３６	１１	４２
その他	２８	５６	２２

＊対象：45 組織、うち大規模組織は９、小規模組織は３６

＊大規模組織：組織の構成員が概ね 100 人以上または学習対象者が概ね 1,000 人以上

＊小規模組織：大規模組織以外の組織

一方、小中学校や公民館の活動による児童生徒及び住民の変容については、以下のとおりで、「地域に対する愛着心が高まった」については、小中学校及び公民館のいずれにおいても大変高い評価となった。

その他、小中学校においては、「地域に貢献する気持ち」や「コミュニケーション能力の向上等」の評価が高く、一方、公民館においては、意識面のみならず、「地域の持続性を高めるために何ができるか考え、行動する住民が増えた」等の行動面での変容が進んできていることが伺われる。

表 11. 学校の ESD 活動による児童生徒の変容(30%以上から回答のあった項目)

項目	割合(%)
地域に対する愛着心を抱くようになった	８４
地域に貢献したいという気持ちを持つことができるようになった	６７
コミュニケーション能力が向上した	４７

(対象：51 校、複数回答可)

表 12. 公民館の ESD 活動による住民の変容(比較的多くの館から回答のあった項目)

項目	割合(%)
地域に対する愛着心が高まった	６９
地域に貢献したいという気持ちを持ち、行動する住民が増えた	５０
地域の人同士の繋がりや信頼関係が豊かになった	３８
地域の持続可能性を高めるために何ができるか考え、行動する住民が増えた	３１
ＥＳＤ活動を通して育んだ価値観のもとに、他の人に伝えたり、人や活動をつなぐ役割を果たす人が出てきた	３１

(対象：16 館、複数回答可)

③ 岡山ＥＳＤプロジェクトの成果に関する認識

持続可能な地域づくりに関する地域全体の意識や行動の変革を目指す岡山ＥＳＤプロジェクトの成果についての各組織の認識は以下のとおりで、「少しずつ成果が上がっている」と「成果が上がっている」の合計が全体の８割程度となる等、今回回答があった協議会参加団体の多くでは、一定の評価をしていることが伺われる。

表 13. 協議会参加団体の岡山ＥＳＤプロジェクトの成果に関する認識

項目	割合(%)
地域全体でみると、プロジェクトの成果はあまり感じられない	6
少しずつ成果が上がっているように感じている	６４
成果が上がっている	１２
その他	１８

（３）協議会が直接実施した事業の状況

本プロジェクトは、協議会に参加している各組織がそれぞれ主体的に活動を行うことを基本としているが、一部活動基盤が弱い市民団体等への助成や、指導者・コーディネーターの育成、市域全体を対象としたＥＳＤや持続可能な社会づくりに関する理解の醸成等については、協議会が直接事業を実施している。

これらのうち、平成２７年度～２９年度における主要な１３事業について、協議会事務局において下記のとおり各事業を点検した。

① アンケート結果

対象事業について、企画段階及び実施段階での「連携」、学習対象者の「変容」、事業見直しの「必要性」についての見解、コスト（対象学習者(団体)当たりの事業費)、事業参加者の推移から見た事業の「継続性」の見込み、参加規模、基本構想「重点分野」との関係について、各事業の担当者からのアンケート結果を基に点検・整理した。

表 14. 岡山ＥＳＤ推進協議会が直接行っている主な事業の点検結果

事業名	連携		変容	見直し	コスト	継続性	参加規模	基本構想
	企画	実施						
ＥＳＤ活動団体発表交流会	A	A	A	B	A	B	C	A
ＥＳＤコーディネーター研修	A	A	A	B	C	C	C	B
ESD 学生インターンシップ事業	C	B	A	C	C	B	C	B
評価指針策定調査	A	A	B	C	B	B	C	A
小中ユネスコスクール活動支援事業	B	A	A	C	C	B	B	B
岡山県ユネスコスクール高校ネットワーク活動支援事業	A	A	A	B	A	B	A	A
ＥＳＤ岡山アワード	A	A	A	A	B	B	A	A
地域ＥＳＤ活動支援事業	A	A	A	A	B	A	A	A
いきものフェスタ	B	A	A	B	A	A	A	A
ＥＳＤなび	B	B	A	A	A	B	A	B
ＥＳＤウィーク	C	A	B	B	A	B	B	A
ＥＳＤカフェ	A	A	A	B	A	B	B	B
岡山連携中枢都市圏 ESD 研修	A	A	A	A	A	B	C	B

なお、表中の類型記号の内容については表 15 のとおりである。

表 15. 点検項目の類型表

点検項目		状況		
		A	B	C
連携	企画(a)	協議会構成組織やその他の組織と連携	市役所内部の関係組織と連携	事務局のみで実施
	実施(b)			
学習対象者の変容(c)		意識・行動とも変容	意識のみ変容	変容は見られない
見直しの必要性（d)		事業の枠組みを継続すべき	事業の枠組みを見直して実施すべき	廃止すべき
コスト（e)		他の事業に比べて低い	平均的	他の事業に比べて高い
継続性（f)		参加者が増加している	参加者は横ばいである	参加者が減少している
参加規模（g)		201 団体または 1,001 人以上	100～200 団体または 500 人～1,000 人	100 団体または 500 人未満
基本構想との関係（h)		重点取り組み*) の複数分野と関連	重点取り組みのうち主に１分野と関連	重点取り組みと直接的な関係は薄い
点数化		+1	0	−1

＊）重点取り組み：基本構想Ｐ５～Ｐ７参照

② 事業評価

表 14 の点検結果について、表 16 の判断基準に基づき、各判断項目ごとに集計評価した結果について、表 17 に基づき３段階で相対評価し表 18 に示す。

表 16. 判断基準

判断項目	内容	評価方法(表中の記号は表 12 を参照)
妥当性	○基本構想の方針等に合致しているか ○ターゲットグループの選定は適切か ○適切な役割分担により行われているか	(ａ)＋(ｂ)＋(ｈ)
有効性	○事業目標は明確か ○事業の具体的な成果が表れているか	(ｃ)＋（ｄ）＋（ｆ）
効率性	○事業成果はコストに見合っているか	(ｄ）＋(ｆ)＋(ｅ)
インパクト	○事業の長期的・波及的効果が期待できるか	(ａ）＋(ｂ）＋(ｇ)
自立発展性	○様々なステークホルダー等により、事業が継承・発展していくことが期待できるか	(ａ)＋(ｂ)＋(ｆ)＋(ｇ)

表 17. 各判断項目の評価結果の分類

合計点	評価	記号
３以上	高い	○
１～２	普通	△
０以下	低い	×

表 18. 各判断項目の評価結果

事業名	妥当性	有効性	効率性	インパクト	自立発展性
ＥＳＤ活動団体発表交流会	○	△	△	△	△
ＥＳＤコーディネーター研修	△	×	×	△	×
ESD 学生インターンシップ事業	×	×	×	×	×
評価指針策定調査	○	×	×	△	△
小中ユネスコスクール活動支援事業	△	×	×	△	△
岡山県ユネスコスクール高校ネットワーク活動支援事業	○	△	△	○	○
ＥＳＤ岡山アワード	○	△	△	○	○
地域ＥＳＤ活動支援事業	○	○	△	○	○
いきものフェスタ	△	△	△	△	○
ＥＳＤなび	×	△	△	△	△
ＥＳＤウィーク	△	×	△	×	×
ＥＳＤカフェ	△	△	△	△	△
岡山連携中枢都市圏 ESD 研修	△	△	△	×	×

（４）持続可能な社会づくりに係る市域の状況

現在、岡山市総合計画等において、持続可能な社会づくりに関連した様々な指標が設定されているが、社会・経済・環境に係る様々要素が相互に関わりあっており、これらの指標により、市全体の様々な取組のひとつである本プロジェクト自体の貢献度を測ることは難しい。

しかし、現在、本プロジェクトは、市域の学校教育機関をはじめ、社会教育機関、大学、市民団体、企業、メディア、行政等の３００を超える様々な組織が参加して、それぞれの特性に応じたＥＳＤに取り組んでいることから、現在、岡山市が隔年で実施している岡山市市民意識調査（以下、「市民意識調査」という）結果等の既存の資料の中で、「持続可能な社会」の状況を表していると考えられる指標について検証した。

① 市民意識調査結果におけるＥＳＤの認知度

このうち、ＥＳＤの認知度については、2013 年(平成１４年)から市民意識調査項目に追加されている。

ＥＳＤに関するユネスコ世界会議が開催された翌年にあたる２０１５年には 37%を超えていたが、２０１７年は、25%程度に下がっていた。

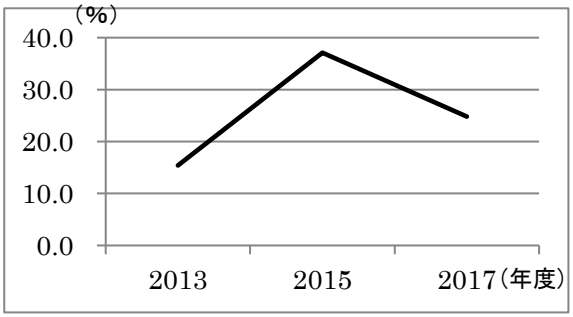

図１．ＥＳＤの認知度

② 市民意識調査結果における市民の行動

継続して市民意識調査が実施されている項目のうち、持続可能な社会づくりとの関連が深い項目として捉えられるものとして「地域活動への参加」（社会）及び「地産地消の取組」（経済）、及び「地球温暖化防止行動実践度」（環境）があった。

そこで、これらの項目について検証したが、現在のプロジェクトの対象期間である2015年以降について、顕著な改善傾向等はみられていなかった。

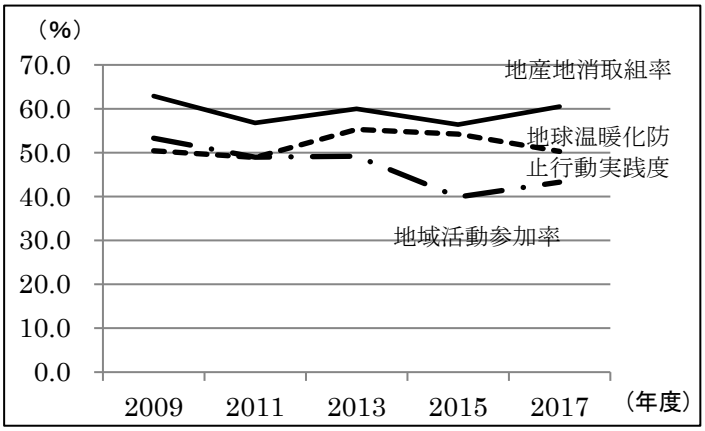

図２．持続可能な社会づくりに係る市民の行動の推移

③ その他

一方で、市民意識調査結果とは異なるが、日々の市民活動に直結した指標のひとつと考えられる「市民一人当たりのごみ排出量」については、近年、改善傾向が続いている。

現在、岡山市では、全庁を挙げてＥＳＤを推進するため、市の関係各組織等が行う幅広い施策・事業について「岡山市ＥＳＤ関連事業」（2018年度：１８課等の３４事業）として位置づけ、ＥＳＤ推進に係る資源としての活用促進を図っている。

その一つであるごみの減量化・リサイクルの推進については、環境局と市内の全ての公民館が連携して取り組んできており、その成果が寄与していることや同様の事例は他のＥＳＤ関連事業等でも考えられることから、今後とも、市の関係部局が連携してＥＳＤ関連事業に取り組んでいくことが重要と考えられる。

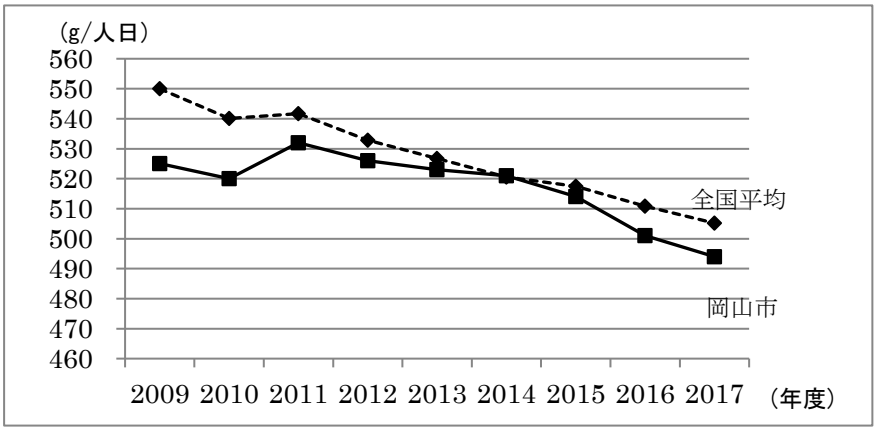

図３．市民一人当たりのごみの排出量の推移（資源化物や集団回収物を除く）

４．まとめ

（１）岡山ＥＳＤプロジェクトの取組状況の概要

前述したとおり、岡山ＥＳＤプロジェクトは参加している各組織により、それぞれ主体的に取り組まれているが、このうち、協議会が直接実施した事業及び、岡山市の関係各部局が実施している事業の概要について、ＥＳＤの国際的なプログラムである「ＥＳＤに関するグローバル・アクション・プログラム（ＧＡＰ）」に規定された五つの優先行動分野に沿って以下のとおり整理した。

表 19. 岡山ＥＳＤプロジェクトの取組状況の概要

活動分類		岡山ＥＳＤ推進協議会が直接実施した事業	岡山市役所のＥＳＤ関連事業
ＧＡＰ優先行動分野	ＥＳＤに対する政策的支援		○第六次岡山市総合計画に「ＥＳＤの拡大と質の向上」を規定 ○岡山市まち・人・しごと総合戦略に「ＥＳＤの推進による地域づくり・人づくり」を規定 ○市がＥＳＤに関する施策を総合的・計画的に実施すること等を規定した「ＥＳＤの推進に関する条例」を制定 ○公民館全体の基本方針の一つに「ＥＳＤの推進」を規定 等
	ＥＳＤへの包括的な取組	○岡山ＥＳＤプロジェクトの趣旨に合致した活動について、活動資金の一部助成や活動資材の提供、共催・後援等を行うことにより、様々な関係組織が行うＥＳＤ関連活動を支援	○例年、岡山市の予算編成に際し、関係各部局等のＥＳＤ関連事業・施策について調整し、パッケージ化して公表
	ＥＳＤを実践する教育者の育成	○ＥＳＤ実践組織の関係者等を対象としたＥＳＤコーディネーター研修を実施 ○「岡山連携中枢都市圏」を構成する関係市町職員等を対象としたＥＳＤ研修を実施　等	○ＥＳＤをテーマの一つとした市の階層別研修等を実施 ○課題解決型の地域活動のリーダーを養成する研修を実施 ○教員対象のＥＳＤ研修講座を開催 ○自然体験リーダー養成講座の開催 ○男女共同参画大学の開催 ○防災まちづくり学校の開催　等

活動分類		岡山ＥＳＤ推進協議会が直接実施した事業	岡山市役所のＥＳＤ関連事業
ＧＡＰ優先行動分野	ＥＳＤへの若者の参加の支援	○公民館やＮＰＯ等のＥＳＤ活動を体験する「ＥＳＤ学生インターンシップ事業」を実施 ○市内小中学校のユネスコスクール活動の支援 ○岡山県ユネスコスクール高校ネットワーク活動の支援 ○国内外のＥＳＤをテーマとしたユース間の交流活動への参加の支援　等	○ブルガリアと岡山県ユネスコスクール高校ネットワーク間の相互交流事業の実施 ○小学生を対象した水辺教室の開催 ○小中学生を対象とした森林体験事業の開催 ○中学生を対象とした、多様な文化の促進を図る「子供海外派遣事業」を実施 ○小中学生対象としたシェアリング・ネイチャーキャンプ ○小学生等を対象としたホタル調査　等
	ＥＳＤへの地域コミュニティの参加の促進	○ＥＳＤ活動団体発表交流会の開催 ○国内外におけるＥＳＤの優良事例を顕彰する「ＥＳＤ岡山アワード」の開催 ○ＥＳＤカフェの連続開催や大型商業施設でのＥＳＤイベントの開催 ○地域の様々な組織が連携し、集中してＥＳＤ関連活動を行うＥＳＤウィーク事業の実施　等	○ＥＳＤ普及啓発事業等を行う「ＥＳＤ・市民協働推進センター」の運営 ○市民や関係組織等がＥＳＤに係る情報を相互に発信・情報共有できるウェブサイトの構築 ○身近な野生生物をシンボルとした環境保全活動の支援 ○ごみ減量・リサイクル等をテーマとした公園・講座等の開催 ○倫理的消費の普及・啓発事業の実施 ○女性活躍推進「見える化事業」の実施 ○地域防災出前講座の実施　等

また、本プロジェクトに関連し、2015 年～2018 年にＥＳＤに係る広域的な顕彰を受けた組織や事業は、以下のとおりであった。

表 20. 岡山ＥＳＤプロジェクトに関連し、広域的な顕彰を受けた活動・組織

事業名等	概要	受賞名 （受賞年）
岡山市藤田地域のＥＳＤ活動	藤田地域内の地域住民と全ての小学校、中学校、高等学校、公民館等が連携して、地域の主要産業である農業を共通テーマとして、地域や世界の持続可能な地域づくりに係る学びに取り組んでいる。	ＲＣＥアワード（2015 年）
京山地区 ESD プロジェクト	公民館を拠点に学校と地域が協働し、「岡山市京山地区ＥＳＤ推進協議会」を設立するとともに、「地域の環境てんけん活動」をはじめ、郷土芸能の伝承や外国人居住者のくらしのサポートなど、地域全体でＥＳＤを推進している。（岡山市京山地区 ESD 推進協議会主催）	ＥＳＤ岡山アワード岡山地域賞（2015 年）

岡山ＥＳＤプロジェクト	岡山市が事務局を担い、ＥＳＤ推進協議会を設置し、地域に根差したＥＳＤを市域全体で推進している。協議会では、ＥＳＤを推進する「プロジェクト参加団体」を認定し、助成金を交付する等の支援を行っているほか、協議会には専任のコーディネーターが配置されている。（ユネスコ国内委員会資料より）（日本で唯一受賞）	ユネスコ／日本ＥＳＤ賞（2016 年）
岡山市生きものの里プロジェクト	市内の身近な野生生物をシンボルとした地域の環境保全活動を、市が支援することにより、地域特性に応じて持続可能な地域づくり行う岡山市の事業。現在 16 地域が指定されている。	ＲＣＥアワード（2016 年）
地域で魅力的に生きる大人と将来を模索する若者の交流事業だっぴ	立場や年齢などに関わらず若者と大人が対等な関係でトークセッションを行う活動で、地域で魅力的に生きる大人と将来を模索する若者とがつながる場を創出している。 （ＮＰＯ法人　だっぴ主催）	ＥＳＤ岡山アワード岡山地域賞（2016 年）
岡山市の生涯学習等に関する取組	岡山市における市民の参加や協働を通したＥＳＤの促進や、生涯学習に関する指標の開発が評価された。（ユネスコ国内委員会資料より）（日本の都市で初めて受賞）	ユネスコ学習都市賞（2017 年）
グローバル人材の育成＆ＥＳＤ思想の普及と定着	高校生を対象に、国際塾やＥＳＤ関連の懸賞論文募集、ＥＳＤ関連のテーマに関し手の活動体験や意見を発表するプレゼン大会、高校生グローバルゼミ等を開催。（ＮＰＯ法人国際子どもフォーラム岡山主催）	ＥＳＤ岡山アワード岡山地域賞（2017 年）
TERAKOYA Project	ネパールで、地域密着型無償学習塾や再生新聞鉛筆の無料配布、縫製訓練学校の運営等を行うこと等により、貧困家庭の基礎学力の向上や環境問題の啓発や女性の収入向上等に取り組んでいる。 （ダフェプロジェクト主催）	ＥＳＤ岡山アワード岡山地域賞（2017 年）
おかやま大野ダルマガエル保全プロジェクト	ダルマガエル（環境省絶滅危惧Ⅱ類）の保護のため、市民や企業、学識経験者、行政機関等が連携して、生息地の確保や水辺環境の維持管理、学習会、ダルマガエルの生息に配慮したお米の栽培・販売等に取り組んでいる。	ＵＮＤＢ認定連携事業（2018 年）
山陽女子中学校・高等学校地歴部の取組	瀬戸内海海底ごみの引き上げや県内外での出前授業や展示会、関連会議での発表等を通じて、海底ごみの実態や影響等に関する理解を深め、流域に生活している人々の意識と行動の変化を促している。	ＥＳＤ岡山アワード岡山地域賞（2018 年）
アフリカと日本をわくわくで繋ぐアップサイクル商品フェアトレード事業	セネガルで、廃棄されているビニール素材やハギレ布を使用して鞄などを制作し日本でも販売すること等により、適切な廃棄物処理への意識啓発と、雇用創出、学校や地域での講習会等を行っている。 （jam tun　主催）	ＥＳＤ岡山アワード岡山地域賞（2018 年）

注)・ＲＣＥアワード

国連大学が、世界のＲＣＥの活動の中から、優れた活動を表彰する制度

・ＥＳＤ岡山アワード岡山地域賞

ＥＳＤ岡山アワード運営委員会と岡山市が、岡山県内でＥＳＤの推進に貢献している団体等を顕彰する制度

・ユネスコ／日本ＥＳＤ賞

世界中のＥＳＤ実践者にとってより良い取り組みに挑戦する動機づけと、優れた取組を世界中に広げることを目的として、ユネスコ加盟国またはユネスコＮＧＯの推薦と審査会による選考を経て、ユネスコ事務局長が決定する制度

・ユネスコ学習都市賞

ユネスコ生涯学習研究所が、「学習都市」（全ての市民が生涯学習を通じて積極的に学び、その能力や知識を社会に活かしていくことにより持続可能な地域づくりを行っている都市）として顕著な進展のあった都市の努力を表彰する制度

・ＵＮＤＢ－Ｊ認定連携事業

生物多様性の保全に関する活動の中で、「多様な主体の連携」や「取組の重要性」、「取組の広報の効果」などの観点から、国連生物多様性の 10 年日本委員会（ＵＮＤＢ－Ｊ）が推奨する事業を認定する制度

（２）成果

（活動の広がり・深まりが進み、持続可能なまちづくりに繋がっている）

前述したとおり、基本構想で設定している指標群の約８割は最終年で達成が見込まれる状況であり、協議会参加組織では、自らの活動により組織自体及び学習対象者の意識や行動の変容が進んでいると評価している割合が高く、プロジェクト全体の成果について全体の約８割が肯定的な評価であった。

中でも、小中学校や公民館では、児童生徒や公民館利用者、また、教員・職員等の意識や行動の変容に繋がっている結果となった。

また、活動分野についても、プロジェクト開始当初に比べると、環境、社会、経済の様々な分野に広がってきている。

加えて、市内各地で様々なＥＳＤに取り組まれてきた結果、子育てや独り暮らしの高齢者、外国人居住者等の暮らしをサポートする活動や、野生生物の保護に関する地域の新たなルールづくり、地域の愛着心の向上、異なる分野の組織間の連携が新たな活動に繋がる等の持続可能なまちづくりに繋がっている事例が生まれている。

また、公民館では、主催講座への参加者が増加している他、防災士の資格を取得した職員が、その知識を生かしてＥＳＤに取り組むこと等により、地域の新たな防災組織づくりが進んできている。

（広域的な交流が地域内外のＥＳＤの推進に貢献するとともに、地域活性化にも繋がっている）

前項で述べたとおり、プロジェクトに係る様々な活動や組織が、ＥＳＤ関連の広域的

な顕彰・表彰を受けている。

また、岡山市内では、国際機関や関係省庁、大学等と連携したＥＳＤ関連の国際会議が継続して開催されている。

このようなこと等から、特にアジアのＣＬＣ関係者を中心に、ＥＳＤや持続可能な社会づくり等をテーマとした視察が増えるなど、国内外の関係者と市民等との新たな交流が広がってきた結果、地域活動における新たな気づきや、活動自体の深まり・広がりに繋がってきている。

近年、市内の観光関連施設・団体等では、増加してきているイスラム圏の訪問者に対応する体制を強化する新たなまちづくりに取り組んでいるが、このようなことも地域の活性化に繋がる事例として捉えることができる。

一方、世界の優れたＥＳＤ活動を顕彰するＥＳＤ岡山アワードの開催や、岡山市を中心とする８市５町で構成する「岡山連携中枢都市圏」事業の一環としてＥＳＤに取り組んでいること、さらにＥＳＤに係る多くの国際会議や視察者の受け入れ等は、広域的なＥＳＤ推進にも貢献できていると考えられる。

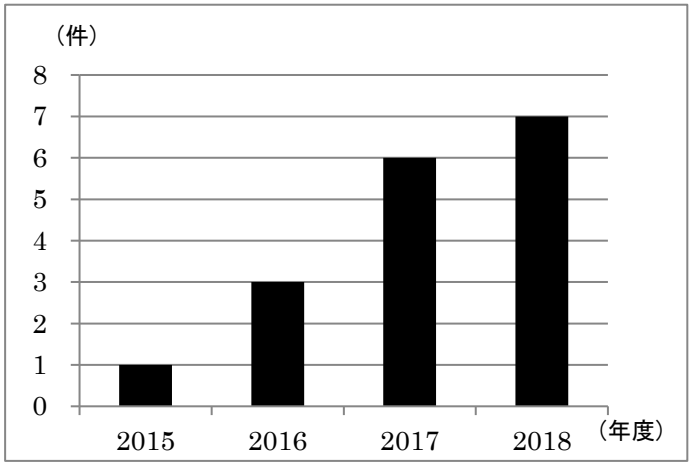

図４．ＥＳＤに係る海外からの岡山市役所への視察件数

（３）課題

（協議会各参加組織では、本プロジェクト全体への貢献意識はあまり高くない）

本プロジェクトは、基本構想の趣旨に賛同した各組織がそれぞれの活動に応じた役割を担い、連携していくことにより、地域全体で効果的にＥＳＤを推進していくことを目指しており、各参加団体等には自らの活動だけでなく、協議会とともに地域全体の活動に参画し、地域全体のけん引役となることが期待されている。

しかし、協議会自体への活動について、「積極的に参加している」と回答した割合は２割程度で、アンケートへの回答率も約５割程度に止まっていた。

この度のアンケートの対象が、協議会委員会や運営委員会の構成組織、協議会からの活動助成対象団体等で、協議会活動において特に中心的な役割を担うことが期待されている組織であることを考慮すると、現状では、協議会参加各組織では協議会活動自体への積極的に参加することや、地域全体のＥＳＤの推進に積極的に貢献していく意識は必ずしも高くないと考えられる。

（参加各組織が、プロジェクト全体に一層主体的に参画していくことが必要）

協議会事務局（岡山市ＥＳＤ推進課）では、参加各組織の活動を補完し、地域全体で効果的なＥＳＤを進めていくため、協議会委員会の決定に基づき、基本構想の「８つの重点取り組み」に沿って、「協議会直接事業」を実施している。

その中では、人材育成関連に係る事業について、他の事業に比べて低い評価となった。

「協議会直接事業」については、通常の地方公務の一環として市の担当職員が担っているが、地域全体で効果的なＥＳＤを推進していく対応組織としては、専門知識や能力面等の面で限界があると考えられる。

ＲＣＥにおいては、高等教育機関をはじめ、「多様かつ分野横断的なステークホルダー」間の連携が重要な役割を果たすことが期待されている。

協議会に参加している多くの高等教育機関や学校教育機関等の中では、本来業務として主に大学生や高校生等を対象とした人材育成に取り組んでいる他、その他の組織の中にも、他の組織への活動支援等を通じて、人材育成をはじめ地域全体の ESD 推進に貢献する中間支援的な機能・役割を有する組織がみられる。

このようなことを踏まえ、今後とも、専門的な知識・技能を有する組織と協議会事務局との適切な役割分担により、地域全体で効果的・効率的にＥＳＤを推進していく体制の構築が必要と考えられる。

５．今後に向けて

現在、世界全体で取り組まれているＳＤＧｓに関し、「ＥＳＤはＳＤＧｓ全ての目標達成の鍵」と言われており、今後、一層地域特性を踏まえてＥＳＤに取り組むことにより、持続可能なまちづくり、地域活性化・地方創生に貢献していくことが期待されている。

この度の調査等によると、参加各組織の多くで学習者の変容やプロジェクト全体の成果については、一定の成果があると認識しており、また、多くの組織がそれぞれの活動とＳＤＧｓとの関連についての認識していた。

しかし、岡山市が継続して調査している全市民等を対象とした調査結果の中で、持続可能な社会づくりの状況を表す指標として捉えられるものを見る限りでは、持続可能な社会づくりに係る意識や行動の変容が進んでいるとは言い難い状況であった。

一方で、個別の分野については、ＥＳＤの取組が貢献していることが伺われる事例もある。

このようなことを踏まえ、今後、ＥＳＤ活動が持続可能な地域づくりに及ぼす効果等について検証できる新たな指標の導入や、地域全体で取り組むべき具体的なテーマを設定し、本プロジェクト参加組織が連携していく枠組みづくり、地域全体のＥＳＤ推進に関しての中間支援的機能を有する組織間の調整・連携強化等について検討していくことが必要と考えられる。

６．おわりに

2020 年以降、ＥＳＤ推進に係る次の国際的な枠組み（ＥＳＤ for 2030）に基づく取り組みが開始されることに伴い、「ＥＳＤ国内実施計画」をはじめとする国内外の関係組織等のＥＳＤの推進方針等についても、見直されることが想定されている。

一方、本報告書は、現在、岡山ＥＳＤプロジェクトに参加している組織・団体の関係者の自己評価結果を取りまとめるとともに、これに関する協議会評価委員会の検証結果を添付している。（別添資料Ⅳ）

今後、本報告書の内容が、プロジェクトに関わっている組織・団体の関係者はもとより、広く市民・事業者等の幅広い参加で検討されるとともに、上述の国内外のＥＳＤ推進に係る新たな方針等も踏まえ、現プロジェクト基本構想の見直しに活かされていくことを期待している。

（参考文献）

・岡山市「岡山市市民意識調査報告書　第１７回　平成２９年度」，2018 年３月
・環境省環境再生・資源循環局廃棄物適正処理推進課「日本の廃棄物処理　平成２９年度版」，2019 年３月
・岡山市「岡山市環境局事業概要（平成３０年度版）」，2018 年１１月
・持続可能な開発のための教育に関する関係省庁連絡会議「我が国における「持続可能な開発のための教育（ＥＳＤ）に関するグローバル・アクション・プログラム」実施計画（ＥＳＤ国内実施計画）」，2016 年３月
・岡山市教育委員会「岡山市立公民館基本方針」，2019 年３月
・国際連合大学高等研究所「ＲＣＥ－ＥＳＤに関する地域の拠点５年間の歩み」，2010 年８月
・日本ユネスコ国内委員会「ユネスコスクールと持続可能な開発のための教育」，2018 年１１月
・阿部　治編「ＥＳＤの地域創生力」，2017 年３月，合同出版
・岡山ＥＳＤ推進協議会「ＥＳＤ活動推進のための評価指針策定に向けた調査報告書 -岡山大学委託事業-」（内部資料），2019 年３月
・岡山ＥＳＤ推進協議会「岡山ＥＳＤ推進協議会が直接行っている事業点検票」（内部資料），2019 年３月
・岡山ＥＳＤ推進協議会「岡山ＥＳＤプロジェクト 2015－2019 基本構想」，2015 年４月　http://www.city.okayama.jp/esd/top.html